

## 第6学年2組 社会科学習指導案

指導者 千葉市立山王小学校 金崎 康人

## 1 小単元名 世界に歩み出した日本

## 2 小単元について

本小単元は、学習指導要領第6学年の「2内容(1)ク」「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かる」を受けて扱うものである。

この内容は、明治中・後期から大正期における、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

日本は開国後、欧米諸国に追いつくことをめざし、国や地方の政治や社会のしくみを改め、人々のくらしが西洋風へと変わり、大日本帝国憲法が制定されるなど、急速に近代化してきた。しかし、江戸時代末期にペリー来航によって開国を余儀なくされ、不利な条約を結ばざるを得ない欧米諸国との力関係は、明治の世の中になっても大きく変わっていない。近代国家の歩みを始めた日本にとって不平等条約の改正は急務であり、またその後の日本の発展に欠かせないものであった。

児童はこれまでに、縄文時代と弥生時代の暮らしの変化、平安時代の貴族と鎌倉時代の武士の生活の違いや江戸時代から明治時代までの社会の変化など、多くの歴史的事象を調べたり、資料から読み取り、比較したりする活動を行ってきた。また、歴史的事象のつながりの必然性も考え、特に、中心になって政治を行ってきたのは誰であるのかを意識しながら時代の流れを見てきた。前小単元「明治の国づくりを進めた人々」では、国や地方の政治や社会のしくみを改め、西洋を手本に国づくりを進め、急速に近代化していったことを学習した。

日本社会の変化の大きさや多さに、児童は無意識のうちに開国により日本は欧米諸国と対等な関係を築けたと捉えている傾向がある。そのため児童にはまだ日本は欧米諸国と対等な関係でないという事実をつかませる必要がある。

そこで本小単元の導入では、西洋クラブの仲間入りの風刺画やノルマントン号事件を教材として扱う。その風刺画の意味や事件の内容をつかんだ上で、まだ欧米諸国と対等でない日本がどのようにして国際的地位向上を目指したかについて予想させる。児童から予想された意見が、(1)政治「大日本帝国憲法発布、帝国議会、日清・日露戦争、条約改正、植民地など」(2)産業「殖産興業、紡績工業、八幡製鉄所など」(3)教育・文化「医学の発展、文学、洋服など」どの観点にあてはまるのか分けさせる。児童が学習を進める際に、導入で3つの観点に焦点を絞っていけばわかりやすく整理できると考える。

調べる段階では、歴史的事象の事実をつかむだけでなく、「貿易総額の年代別のグラフ」「日本の領土の変化」など比較できるような資料も用いて、日本がどのように変化しているかも考えさせる。また、産業の発展の様子がわかる写真を使って、興味を引き出せるように工夫する。資料の読み取りについて、わかったこと、考えたことを自分の言葉で表現する場として、小グループを学習活動の中に取り入れたい。

学習のまとめるでは、自分で調べた歴史的事象を年表にして、そこで活躍した人物についてもまとめる。そして日本の国際的地位を向上させるためには何が重要か話し合い、「政治」「産業」「教育・文化」

の3つの観点が、どれも日本の国際的地位の向上に必要不可欠であったことを理解させ、それが、「富国強兵」を指針とした明治政府の国作りに繋がるようにしたい。また、我が国の国際的地位を向上させる努力が図らずも国際紛争を招き、植民地支配までに及ぶ過程まで繋がり、次の小単元に入っていければと考える。

本小単元の学習を通して、観点を決めて調べを進めていく方法はいろいろな場で応用していくことができる。観点を分けることは、課題にはどのような要素が含まれているか、何を調べれば課題の解決につながるのか、学習の手順を学ぶことでもある。

それは、個々の児童が学習の方法を理解することでもある。その理解は今後の学習への意欲、主体的に学ぼうとする姿勢を育てることにつながると思う。

### 3 児童の実態 (男子19人 女子18人)

#### ①社会の学習は好きですか。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
9人	13人	13人	2人
〈主な理由〉 ・興味がある ・調べるのが楽しい ・テストで資料に答えがあるから ・生活にいかせる		〈主な理由〉 ・覚えることが多い ・字をたくさんかく ・地図がきらい ・何を調べるかわからない ・難しいから ・興味がない	

#### ②歴史の学習は好きですか。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
13人	11人	9人	4人
〈主な理由〉 ・歴史人物がわかるから ・歴史自体が好き ・昔のことに興味ある		〈主な理由〉 ・覚えられない ・何を調べるかわからない ・考えるのが難しい ・興味がない	

#### ③資料を読み取ることは得意ですか。

得意	やや得意	やや苦手	苦手
6人	16人	13人	2人
〈主な理由〉 ・大事だと思うところに目を配れるから ・見つけたものを丁寧にまとめられるから ・細かい字のところまで見るのが好きだから		〈主な理由〉 ・何を見ればよいかわからない ・どこに何が書いてあるかわからない ・たくさんありすぎて何が大事かわからない ・読み取っても比較とかできない ・何を読み取るかわからない	

④資料を読み取ったり、調べたりしたことをもとに、自分の考えをもつことは得意ですか。

得意	やや得意	やや苦手	苦手
6人	10人	15人	6人
〈主な理由〉 ・考えることが好き ・ノートに考えをまとめることが得意 ・自分の考えがすぐに浮かぶ		〈主な理由〉 ・間違うことがいや ・ノートに考えをまとめることが苦手	

⑤資料を読み取ったり、調べたりしたことをもとに自分の考えを友達に伝えることは得意ですか。

得意	やや得意	やや苦手	苦手
2人	12人	14人	9人
〈主な理由〉 ・合っていることが多いから ・共感し合えるから ・友達の意見でわかることがあるから		〈主な理由〉 ・伝えることが苦手 ・読み取れないから ・考えがまとまらない ・何を考えて、伝えるかわからない	

⑥現在の日本は世界の中で上位国・中位国・下位国どのくらいの位置づけだと思いますか。

(経済や人口など具体的な数値化されたものでなく、ただ単に児童のイメージとして)

上位	中位	下位
27人	4人	6人
〈主な意見〉 <input type="radio"/> 平和で安全 <input type="radio"/> きれい <input type="radio"/> 事件が外国に比べて少ない <input type="radio"/> 高度な技術 <input type="radio"/> 文化が進んでいる <input type="radio"/> 伝統が引き継がれている <input checked="" type="radio"/> 危険なところもある		

⑦明治時代のころの日本は世界の中で上位国・中位国・下位国どのくらいの位置づけだと思いますか

(経済や人口など具体的な数値化されたものでなく、ただ単に児童のイメージとして)

上位	中位	下位
18人	7人	12人
〈主な意見〉 <input type="radio"/> 安全 <input type="radio"/> 高度な技術 <input type="radio"/> 文化がある <input type="radio"/> きれい <input checked="" type="radio"/> 決まりとかまだなさそう <input checked="" type="radio"/> 目立ってない <input checked="" type="radio"/> 食べ物が不足してそう <input checked="" type="radio"/> 技術が低い		

⑧小単元の事項

人物	知っている	聞いたことがある	知らない
伊藤博文	0人	2人	35人
陸奥宗光	0人	3人	34人

東郷平八郎	0人	1人	36人
小村寿太郎	0人	3人	34人
野口英世	14人	15人	8人
夏目漱石	14人	13人	10人
樋口一葉	15人	14人	8人
平塚らいてう	0人	0人	37人
与謝野晶子	0人	0人	37人
知っている人物について 夏目漱石・樋口一葉・野口英世 お札の人ということで、何をした人かはわかっていないようだ。			

出来事・用語	知っている	聞いたことがある	知らない
大日本帝国憲法	2人	3人	32人
関税自主権	1人	0人	36人
ノルマントン号事件	2人	0人	35人
日清戦争	4人	0人	33人
日露戦争	4人	2人	31人
出来事・用語について知っているとは答えた児童は、内容までわかっていた。			

観点に分ける言葉に対してどんなイメージをもつか

政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国づくり (15人)</li> <li>・天皇中心の国づくり (13人)</li> <li>・幕府 (12人)</li> <li>・国の決まりごと、法律など (11人)</li> <li>・武士による国づくり (8人)</li> <li>・条約 (4人) ・軍隊 (3人) ・貿易 (2人) ・安倍総理 (2人)</li> <li>・鎖国 ・開国 ・えらい人 ・参勤交代 ・四民平等 ・ご恩と奉公</li> <li>・小池都知事 ・西郷隆盛 ・大久保利通 ・徳川家康 ・豊臣秀吉 ・織田信長</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業 (21人) ・農業 (14人) ・水産業 (12人)</li> <li>・富岡製糸場 (11人)</li> <li>・外国の製品 (8人) ・工場 (6人) ・JFE スチール (2人)</li> <li>・武器製造 ・貿易 ・特産物 ・物を売る ・物を買う ・世界遺産</li> </ul>
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強をする、たくさんのことを学ぶ (25人)</li> <li>・学校 (14人)</li> <li>・国の伝統 (11人)</li> <li>・子どもを育てる (8人)</li> <li>・食べ物 (2人)</li> <li>・キリスト教 ・蘭学 ・祭り ・国学 ・日本地図 ・方言 ・伊能忠敬 ・福沢諭吉</li> <li>・仏教 ・ひらがな ・カタカナ ・杉田玄白 ・前野良沢 ・世界遺産</li> </ul>

## 〈考察〉

本学級の児童は、社会科の学習に対して「好き」と「嫌い」ではっきり分かれている。社会科が好きな児童は、未習の歴史的事象や人物についても本や歴史まんがを読んでいたりと、授業に入る前から知っていることを発表したりすることもある。しかし、嫌いな児童は、興味も示さず受け身の状態で学習している。はじめから、知識の量で差がついている状況がある。資料の読み取りについては、社会科の好き嫌いに関係なく、絵や写真、グラフ、表などから、気が付いたことや疑問に思ったことをできるだけたくさん見つけようとする児童が多い。しかし、資料から読み取ったことで、自分の考えを持ったり、既習のことと関連付けたりすることができる児童は少ない。また、自分の考えを発表することに臆する児童が多い。したがって、資料を表面的な読み取りで終わってしまう児童がほとんどで、複数の資料や時代背景を関連付けて思考を深めていくことにはまだまだ課題が多くある。

質問①②より、半数弱の子たちが社会科は嫌いだと答えている。その理由としては、「覚えることが多い」「考えることが難しい」ということを挙げており、社会科は覚えることが多く、社会事象に詳しくなければ考えることが難しい教科であるという認識がある。また、「何を調べてよいのかわからない」ということを挙げている。社会科が「嫌い」な児童でも興味がわくような資料を使い、おもしろいエピソードなどを活用して授業を進めていきたい。

質問③④⑤から、資料の読み取りについても「得意」と「得意でない」がはっきり分かれている。授業中の様子を見てみると、資料の読み取りをするときは得意・得意でない児童に関係なく、できるだけたくさん見つけようとする児童が多い。しかし、ほとんどの児童が表面的な読み取り、見つけたことで満足する、全く考えることをしないで終わってしまうことが多い。話し合いにしても資料の読み取りが「得意」と答える児童の考えを一方向的に伝え、教え合い活動のようになってしまう。資料の読み取りを「得意」と感じる児童については、複数の資料を比較したり、関連付けたりするよう助言しながら取り組ませていきたい。また、資料の読み取りを「得意でない」と感じる児童に対しては、資料に対して焦点を絞って読み取るように助言しながら取り組ませていきたい。児童の考えに「同じ」と同調することがあっても自分の言葉で言い直し、付け加えて発言できるような話し合い活動を目指したい。

質問⑥⑦より、日本の地位について、過半数の児童が明治と現在が変わらないと考えているので小単元の導入で明治時代の日本の地位をしっかりとつかませる必要がある。この時代は歴史的事象が多く、それぞれが関連をもっているため、時代を総合的に把握することが難しい。

質問⑧より、社会が「好き」な児童でも、小単元で扱う人物、出来事についても知らない児童がほとんどである。「嫌い」な児童にはさらに難しさを覚える小単元でもある。

児童には「政治」「産業」「教育・文化」3つの観点を柱に日本が欧米諸国と対等になっていく姿をしっかりと捉えさせたい。また、この3つの観点で調べさせることは、質問①②③で「何を調べてよいのかわからない」と回答している児童にとっても有効な手立てであると考えられる。

「観点に分ける言葉に対してどんなイメージをもつか」児童の回答の中で、重複するもの、またはどこに分けてよいのか迷うものもある。重複するものについては、関連させながら考えさせていきたい。

4 知識の構造図

大日本帝国憲法、日清・日露戦争、条約改正や産業・科学の発展により、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上した。また産業の発展は、人々の生活や社会に変化をもたらした。⑨

中心概念

具体的知識

用語語句



つかむ

調べる

## 5 単元の見目

- 大日本帝国憲法・日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働きを理解し、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働きを考えようとする。
- 大日本帝国憲法・日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働から学習問題を見だし、調べたことをまとめ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことやそれにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に表現する。

## 6 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○大日本帝国憲法発布・日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。 ○日本の国際的地位に関心を持ち、それが世界の中でどのように変化してきたか進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○大日本帝国憲法発布・日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらにかかわる人物の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現する。 ○我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことにかかわる人物の願いや働きについて考え、表現している。
観察・資料活用の技能	○大日本帝国憲法発布・日清・日露戦争、条約改正、科学の発展や、それらにかかわる人物の働きについて、資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	○大日本帝国憲法発布・日清・日露戦争、産業の発展や条約改正などによって我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことがわかっている。 ○我が国の産業がさかんになり、国際的地位が向上したことによって、人々の生活や社会が変化したことがわかる。

## 7 単元の指導計画（9時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容
つ か む	1  (本時)	○明治政府のもとで近代化を進めた日本が欧米諸国との関係が対等でないことに気付かせ、対等になるためにどのようなことをしてきたのか「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点をおさえて予想させる。 ・前単元で学習したことで明治政府が行ったことを復習する。 ・ノルマントン号事件の判決内容で欧米諸国と対等な関係でないことに気付かせる。 ・欧米諸国と対等な関係になるためにどのような政策を進めていったのか考える。  小単元全体の学習問題 日本はどのようなことをして欧米諸国と対等な関係を築いていったのだろうか。

	2	○学習計画を立てる。 ・前時で立てた予想を「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点で分ける。
調 べ る	3	○伊藤博文が大日本帝国憲法を制定した思いを考える。 ・なぜ国が統制を行わなければならなかったのか話し合う。
	4	○産業の発展によって起こった様々な動きについて調べる。 ・1890年と1910年の日本の貿易輸出額・輸入額の推移のグラフを比較させ、紡績工業の発展を考える手がかりにする。
	5	○日清・日露戦争について調べ、世界の中での日本の地位の変化を考える。 ・日清・日露戦争の風刺画や資料を用いて、当時の日本の国際的地位について考えられるようにする。
	6	○日本が朝鮮を植民地にして、朝鮮の人々をどのように支配したのかを調べる。 ・領土の広がりや資料を用いて、日清・日露戦争後に日本の国際的地位が変化してきたことに気付かせる。 ・小村寿太郎が条約改正に成功し、今後の日本と欧米諸国との関係が変わっていくことに気付かせる。
	7	○明治の中ごろから、医学などの分野で国際的に活躍した人々について調べる。 ・資料集等から日本の科学者の活躍について調べる
	8	○産業の発展によって生活がどのように変わってきたのかをまとめる。 ・写真や資料を用いて産業の発展について、良い面と負の面の両面に目を向けさせる。
ま と め る	9	○大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べたことをまとめる。 ・歴史的な事象を年表でまとめ、そこで活躍した人物についておさえる。 ・調べたことをまとめ、日本の国際的地位向上には何が重要か話し合い、「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点がどれも欠かせないものであること理解する。  日本は大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などの政策によって欧米諸国と対等な関係を目指していった。

## 8 市教研社会科研究主題のための方策

「みえる わかる・・・いかす」

よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習

〈本年度主題解明のための方策〉

視点①目指す児童の姿、習得すべき知識・概念、身に付けさせたい力の明確化

視点②追求意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

視点③主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

視点④社会認識の深まりや社会の参画の資質や能力を見取る評価の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

視点① **目指す児童の姿、習得すべき知識・概念、身に付けさせたい力の明確化**

日本の国際的地位向上を目指すために行った政策について、「政治」・「産業」・「教育、文化」の3つの観点で整理させたい。

児童は開国ということで、欧米諸国と同等になったと捉えている児童が多い。そこで、単元の導入でノルマントン号事件の内容を扱い、当時の日本がまだ弱い立場であることを捉えさせる。そして日清戦争で勝利した後でも、西洋クラブの仲間入りの風刺画から、まだ欧米諸国からは日本は下に見られていることをつかませ、日本の国際的地位の低さをしっかりと把握させたい。ノルマントン号事件の内容や裁判の結果を知ると、児童は明らかに日本が不平等に扱われていることが分かりやすく捉えられると考える。また、西洋クラブの風刺画も使うことで、児童に日本の地位がまだ国際的に低いことを捉えさせることができるだろう。

そして、今後日本が欧米諸国と対等になるにはどうすればよいのか予想させ、児童から出された意見を観点別に分けさせる。児童が整理できるようにあらかじめ、教師が「政治」「産業」「教育・文化」の3つ言葉を示しておく。出された予想や意見がどの観点に当てはまるかわからないという児童も出てくると思うので、3つの観点の他に「その他」という観点も付け加えておく。

その後日本は「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点で、どのようにしていけば世界的地位の向上につながっていくのか調べさせる。自力で調べることが難しい児童に手立てとして、歴史的事象の状況がわかる写真やグラフ・表など、また比較できる資料を精選することで調べやすくさせたい。毎時間で、調べた内容は「政治」「産業」「教育・文化」で、どの観点にあてはまるのか、必ず振り返らせたい。それにより、小単元の最後に、児童がまとめやすくなるだろう。まとめでは、歴史的事象を年代に沿って、そこで活躍した人物についてもおさえさせたい。

このように学習を進めていけば、児童に学習の方法を身につけさせることができるだろう。児童が今後の学習でもいくつかの観点で整理して、調べていけるようになり、知識習得にも繋がるだろう。

視点③ **主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫**

実態からも明治時代は現在の日本の世界的地位と同じくらい高いと考えている児童が多いことから、世界にも目を向ける必要があると感じさせる。そのために諸外国と日本との関係が一目でわかるような風刺画の一部分に注目させるなど資料提示の工夫が必要である。資料から読み取って、明治時代の日本の世界的地位をつかんだ上で、今後どのようなことが起きていくのか、「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点で予想疑問を立てさせたい。この時代は歴史的事象が多く、それぞれの事象がいろいろなことに関連をもっているため、ただ調べるだけでは、児童が混乱するのではないかと考える。この「政治」「産業」「教育・文化」の3つの観点で調べていけば、児童は日本が国際的地位をあげるために行った政策など整理でき、学習内容をつかみやすくなるだろう。

予想が難しい児童には、歴史上の人物が力をどのように示したか簡単な言い回しにしたり、資料の読み取りにヒントをつけたたりしておくなどする。

児童が立てた予想や疑問をもとに情報や資料から調べ、ノートにまとめたり、話し合ったりする。自分とは異なる多様な意見を聞いて考えが広がったり、深まったりするだろう。学習の観点を整理することで、児童が学習内容をつかむことができるようになる。また、観点を整理することで児童が何を学習するのか分かり、今後の学習でも主体的に学ぼうとする意欲も高まっていくだろう。

## 9 本時の指導（1/9）

### （1）本時の目標

○欧米諸国に追いつこうとしている日本の様子を知り、学習問題や予想を考え表現している。

（思考・判断・表現）

○日本と外国との関係について関心を持ち、日本がどのように対等な関係を築こうとしたのか疑問をもとうとしている。

（関心・意欲・態度）

### （2）本時の展開

学習活動と内容	教師の指導と支援 ◆評価	資料
<p>1 前小単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡製糸場・徴兵令・地租改正</li> <li>・自由民権運動</li> <li>・様々な政策により日本は強くなったか</li> </ul>	<p>○「政治」・「産業」・「教育、文化」3つの観点をおさえて国づくりを振り返る。</p>	<p>掲示物</p>
<p>2 ノルマントン号事件の概要を知り、日本の立場がどのような状況であったか疑問をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おぼれている人がいる。</li> <li>・おぼれている人は日本人かな</li> <li>・船にのっている人は外国人かな</li> <li>・助けないのかな</li> <li>・船長の罪が軽いというのはおかしくないかな</li> <li>・現在と違うね</li> <li>・不公平じゃないかな</li> <li>・こんなの平等じゃないよ！</li> </ul>	<p>○日本とイギリスの死者数を比較することや裁判の結果を示すことで、日本の立場が弱い点について捉えさせる。</p> <p>○当時の人々の気持ちを想起させ、不平等条約に対する思いを発表させる。</p>	<p>P117 ノルマントン号事件の風刺画</p>
<p>3 西洋クラブの仲間入りの風刺画を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんかペコペコしているな</li> <li>・本当に日本は仲間入りしたのかな</li> <li>・明治維新から頑張ってきたのに・・・</li> </ul>	<p>○日清戦争に勝利したことをふまえて資料を提示する。</p> <p>○まだ日本の国際的地位が低いことに風刺画から再確認させる</p> <p>○日本のおかれている立場について、今後日本はどうなるのか話し合わせる。</p>	<p>P115 西洋クラブの仲間入り風刺画</p>
<p>4 資料から調べたことをもとに学習問題をつくる。</p>	<p>○児童の発表を観点別に記録し、わかりやすく整理する。</p> <p>◆欧米諸国に追いつこうとしている日本の様子を知り、学習問題や予想を考え表現している。</p>	
<p>日本はどのようなことをして欧米諸国と対等な関係を築いていったのだろうか</p>		

<p>5 今後日本が欧米諸国と対等になるにはどうすればよいのか、「政治」「産業」「文化・教育」の3つの観点で考え、発表する。</p> <p>〈政治〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争に勝てるように力をつける</li> <li>・外国と同じように憲法をつくらなくてはいけないのでは</li> </ul> <p>〈産業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業をもっと発展させないといけない</li> <li>・たくさんのお金が必要かな</li> <li>・武器をつくらなくては</li> </ul> <p>〈教育、文化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強しないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本が欧米列強と対等になるためには何か政策が必要か考えさせる。</li> <li>○「政治」「産業」「文化・教育」の3つの観点で、具体的におさえさせる。</li> <li>○3つの観点に入るかわからない場合のために、「その他」を設けるよう助言する。</li> <li>◆日本と外国との関係について関心をもち、日本がどのように対等な関係を築こうとしたのか疑問をもとうとしている。</li> </ul>	
--	---	--